

平成12年9月
8日・9日・10日

第30回日本口腔インプラント学会
総会・学術大会

第20回 日本口腔インプラント学会
関東甲信越支部総会 併催

抄録集

池田

主 管

日本口腔インプラント学会関東甲信越支部

大会長

白 川 正 順

事務局

日本歯科大学歯学部
口腔外科学教室第一講座内
〒102-8158
東京都千代田区富士見2-3-16
TEL <03> 3261-5902
FAX <03> 3261-5933

各種インプラントの臨床経過

○池田哲哉、渡辺孝夫、岩野清史、清水治彦、日高豊彦、浅井澄人

厚生歯科インプラント研

I 目的 → (The purpose) → material → (form) → detail surface property
 インプラントを材質、形態および微細表面性状に基づいて分類し、その臨床成績よりインプラントの予後を左右する要素を極索した。
 ↳ reference ↳ element ↳ clinical result

II 材料および方法 → way → the number of example
 厚生歯科インプラント研にて 1983 年より 1996 年 9 月までに植立した骨内インプラントを対象とした。内訳は症例数 248 人、男性 87 名、女性 161 名。年齢は 14 歳より 80 歳まで、平均 41.3 歳。骨内インプラントは 6 メーカー、730 本であった。これらを材質および微細表面性状により、HA 焼成体 (AP)、酸化アルミニウム結晶体 (AL)、チタン+チタンプラスコーティング (TPS)、チタン+HA コーティング (HAC)、チタン+随凹型微細処理 (TS) の 5 種類に分けた。

III 結果 → the result → the exposure
 破折・脱落・摘出のインプラントは 45 本 6.2% であった。AP が 46.4% (13 本/28 本)、で最も悪かった。インプラント周囲炎の発生率は 46 本、6.3% で、HAC が 16.7%/42 本、TPS が 14.7%/184 本と、悪かった。残存率は 685 本 (730 本)、93.8% で、TS が 98.6% (414 本/420 本) で、最も良好であった。TS についてインプラントの長さ^{It was the best}と残存率を比較した。その結果、16mm が 100%/153 本、12-13mm が 99.4%/158 本、10mm が 98.0%/99 本、8mm 以下が 70.0%/10 本と長い程良好であった。
 ↳ the omission ↳ among these ↳ it is the worst ↳ the remaining percentage ↳ the length ↳ compares ↳ the following
 The longer it was, the better it was.

IV 考察および結論 → The consideration and the conclusion
 以上より、インプラントの予後^{from above}を左右する要素として、材質、微細表面性状^{showing}インプラントの長さ^{material}が重要と考えられた。
 ↳ material ↳ detail surface property
 As the element to influence
 it thought that the length was important